

令和3年度授業評価アンケート結果に基づく 令和4年度の授業改善計画報告書

令和3年度授業評価アンケート結果について	非常に満足	満足	普通	不満	非常に不満
	0%	38%	46%	8%	8%

	全くできなかった	できなかった	どちらでもない	出来た	よく出来た
シラバスに基づいた授業展開	0%	8%	8%	61%	23%
シラバスに記載したCP, DPの対応	0%	15%	8%	77%	0%
来年度に向けた改善点の抽出	0%	0%	31%	61%	8%

令和3年度授業評価アンケート結果による自己評価(抜粋)	シラバスの内容の通りに進めると受講学生の反応が思わしくないときがあったので、シラバスと学生の授業期待の隔たりを感じた。次回はその隔たりを埋めていく授業設計を考えたい。
	一時限分に対しての内容が適切な量でなかったり、シラバス内容との不一致があったことに反省し、改善する。
	オンラインによる個別学生への対応が増したが、学生が納得するまで対応することができた。
	短期大学部食物栄養学科(短期大学士(栄養学))の卒業の認定・教育課程の編成及び実施に関する方針および短期大学部専攻科食物栄養専攻(学士(栄養学))の修了の認定・教育課程の編成及び実施に関する方針における、日本大学教育憲章(「自主創造」)の3つの構成要素及びその能力)について、私の授業は世界の現状を理解し説明する力、挑戦力、リーダーシップ・協働力および省察力については、十分に対応できていなかったと考えられる。
実習科目は講義科目と異なり、先のクラスはコロナ対応に手間取るためか、全体的に評価点が低かった。感染拡大状況によって対応が変わるのでこの差をなくすことは難しい。	

令和4年度に向けて、授業改善を行いたい項目(複数選択可)	授業計画(シラバス内容)	教材の開発	授業の準備	教授法	成績評価
	23%	38%	38%	54%	15%
	オンライン授業の対応	その他(小テストの解説など)			
	46%	8%			

令和4年度の授業改善計画(抜粋)	オンライン併用の場合も含めた教授方法として、演習や共同作業を取り入れたアクティブラーニングを増やしていきたい。
	準備に時間を費やし過ぎないようにし、また毎時限の評価を直ぐに実行すること、その上でIT機器やソフト利用の習熟時間を持つようにする。
	令和4年度は3クラス制での実習ができるため、令和3年度より余裕をもって臨むことができると考えている。感染状況は予測ができないが授業の準備を反省を踏まえ行っていく。
	毎回の授業内容についてより詳しく記載することで、準備学修が円滑に実施できるよう配慮する。
今後は、世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができること、あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができること、集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができること、そして謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができるような内容にするべく教師、学生の双方、学生同士でのディスカッションが自然と行えるような授業内容にしていこうと配慮していきたい。	